



「聞く」から「聴く」へ ―一年間の育ちを感じて―

校長 渡邊 圭三

「今から、ある先生の声が流れます。声や答えている内容から、誰先生か当ててください。」
 今月、お昼の放送で流れている放送委員会による「先生当てクイズ」。これが始まると、教室の子供たちはピタッと話をやめ、聞き耳を立ててスピーカーから流れる音声に集中して学校中が静まり、その後、正解が告げられると「ワーッ」という歓声が校長室まで届きます。先生たちはどんな声だったか、話の内容はどうだったかなどを想像することで話に関心を向ける、つまり、子供たちには聞く構えができています。そのことを踏まえて、先日の全校朝会は、私も対面でもリモートでもない、声だけの放送を行ってみましたが、子供たちはいつも以上にしっかり聞いていたとのことでした。

日常生活では、話し手は今回のように耳で捉える音声だけではなく、表情、視線、身振り、文字・画像の資料等、目から入る情報も伝えています。身体感覚全体で話を聞く、という表現もあります。児童が物事を理解する上での認知特性においては、目からの情報が分かりやすい「視覚優位」と、耳からの方が分かりやすい「聴覚優位」があることも念頭に置きつつ、私たちはその時々に応じてよりよい方法をとるようにしています。今回、音声のみを耳で集中して聞くという事例を紹介しましたが、たとえ目からの情報がなくても、話し手の声や内容に関心をもち、聞く構えができていると、多くの子が集中している様子が見られました。

聞く力は、日々の積み重ねの中で高められていくものです。本校では、今年度校内研究の一環として、各学級で「話し方・聞き方名人」を設定することに加え、右記の約束を提示して「伝え合い常置活動」に取り組んできました。人の話を聞くと自分にはなかった考えに出合える、そして、理解し合えると楽しい、という思いがこの一年間で育まれてきたように感じられます。耳で「聞く」から目と心も使った「聴く」へ。心を傾け注意深く聴くことは、学びの基礎基本であり、他者を理解する温かな心の育成にも通じます。残り一ヶ月。現学年でのまとめの時期であるとともに、進級・進学に向けた助走期間です。聴く力をはじめ、今年一年間子供たちは様々な力を付けてきました。三月、期待と不安が入り交じりながらも、次に向けて着実に成長している子供たちの心に寄り添い、話に耳を傾けながら、皆で温かく見守っていきましょう。

○ 友達の話を最後まで聞く
 ○ 考えが変わってもいい
 ○ お互いに質問し合う
 ○ 話したり聞いたりする
 ○ 思いやりをもって
 両小の伝え合い
 四つのルール

今年度の学校だよりも最終号となりました。本校の教育活動の推進に、保護者の皆様、地域の皆様から、様々な場面で御支援・御協力をいただいたことに心より感謝申し上げます。